地域の底力を信じ、市民一人一人をローカルヒーローに!

ながののNPOと市民をつなぐ機関誌

まんまる

特集 新しい教育のカタチ

●まんまるニュース
●Myストーリー　被爆体験を聴く会 代表 土田 昇さん
●ねぽが行く！突撃となりのＮＰＯ　特定非営利活動法人 千曲ねこの会
●お宝ざくざく地域を掘り起こせ！　浅川地区・芋井地区
●まんまるイベントスケジュール

子どもの権利条約を学び、学級憲章をつくる５、６年生（グリーンヒルズ小学校）

2024 夏号 №41

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

市民協働サポートセンターは SDGs を推進しています

特集

新しい教育のカタチ

時代の変化に伴い、教育を見直す動きが広がっています。これまで日本の公教育は、すべての子どもたちに一定水準の教育を施す点で大きな意味がありました。一方で、みんなで同じことを、同じペースで、同じようなやり方で勉強することの弊害も目立つようになってきました。

文部科学省で『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実がうたわれる中、長野市ではどのような動きがあるのでしょうか？　多様な社会を生きる子どもたちの教育について考えます。

新たな学校像とは

長野東スーパーフレックス新校 再編実施計画懇話会

長野県教育委員会は、少子化や激変する社会に対応するための高校改革を進めています。長野市北部が該当する旧第3通学区では、全日制の長野東高校と定時制・通信制4校を統合し、新校を開設する予定です。昨年から学校関係者や在校生、NPOなどを構成員とした懇話会が開催され、構想が話し合われています。

これまでの懇話会では、生徒が学びたい内容や時間に合わせて授業を選べるといった新しい学校像に加え、「統合する5校の良さをどう生かすか？」という点も話し合われてきました。ある参加者は、「少人数制の良さ・安心感の確保や、そば部など特色ある部活動や取り組みは残してほしいといった在校生の意見が印象に強く残っている」と振り返ります。

6月11日に開催された6回目の懇話会には約30人が参加し、「多くの生徒が安心して入学できる学校に必要なことは何か？」を議題にグループワークを実施。「意欲ある教員確保のためにも全国に教員募集を呼び掛けたい」「多様なニーズに対応できる相談役のような人が必要」「地域の資源を生かせたら」「ある程度の人数規模を維持して活発な部活動を」「授業選択では、さまざまな進路に合わせた案をあらかじめ提示する工夫も必要」など、活発な議論が展開されました。また、新校の必要性を改めて問い直す意見や「何を残して何を捨てるのかについて検討していく必要がある」と今後の懇話会のあり方にも意見が出ています。

地域から期待される新校を目指し、今後も学校像や学びのイメージなどの検討を重ねながら、6～9年後の開校に向けて協力していきます。

長野東高校（全日制）
長野吉田高校戸隠分校（定時制）
長野高校（定時制）
長野商業高校（定時制）
長野西高校（通信制）

→

長野東
スーパーフレックス新校(仮称)
多部制・単位制・通信制

答えのない問題に取り組み、社会と接続する

角川ドワンゴ学園

今年4月、学校法人角川ドワンゴ学園 N高等学校（以下、N高）、S高等学校が長野市鶴賀に通学コースのキャンパスを開設しました。同学園には、「ネットコース」「通学コース」「オンライン通学コース」「通学プログラミングコース」「個別指導コース」と5つのコースがあり、生徒の目標やライフスタイルにあわせた学びが可能です。通学コースでは登校日数を自分で選択し、基礎科目のほか、プロジェクト学習（特定の教科学習ではなく、プロジェクトや目標達成のために取り組む学習方法。課題を見つけて解決していく中で、解決能力や実践能力が育まれる）やプログラミング、語学などの学びを通じて総合力を身に着けます。

5月24日に行われたプロジェクト学習では、全国各地のキャンパスをオンラインでつなげながら、議論を交わしました。今回のプロジェクト内容は、キャンパスらしさを盛り込んだTシャツをデザインするというもの。この日は各自がオリジナルのデザインを披露し、グループで意見を出し合いました。相手と対等な立場で自分の意見を伝える「アサーション」というコミュニケーション方法について事前に学んだ生徒たち。議論や協働をするうえで大切なスキルです。「このデザ

ノートパソコンを開いて授業に臨む生徒たち

イン斬新だね！」「明るい色にするともっと伝わるかも！」など、相手を尊重しながら発言していました。授業は異学年混合ですが、年齢に関係なくフラットに意見を出し合い、教員は考えるためのサポートに徹します。また、ティーチングアシスタント（TA）と呼ばれるサポーターが生徒に伴走し、この日も大学生のTAが一緒にグループに入っていました。

リベラルアーツを学べるのも特徴のひとつです。N高1年生の内藤麻優（まゆ）さんは、「社会学に興味がある。地域に『学びの場』を創ることで、地方創生につなげていけたら」と学びの先にある抱負を語りました。そうした学びは既存の全日制高校では難しいと考えていた内藤さんにとって長野キャンパス開校は朗報だったそうです。

内藤麻優さん

長野キャンパス長の石倉直樹さんは、「学びを実践することは生徒の自信につながる。通学コースでは、生徒同士が関係性を深めたうえでフィールドワークできることが強み。開校によって長野での進路選択の幅が広がるのではないか」と話しました。

公立高校から通信制への転入という選択

大西彩桜（さくら）さん

高校生の頃から地域活動に参加し、現在は手洗いの大切さをカンボジアの子どもたちに伝える活動に力を入れている大西彩桜さん。今年4月、立命館アジア太平洋大学へ進学し、学校生活と活動を両立しています。

大西さんは県立高校2年生の一昨年9月にカンボジアを訪れ、そこで目の当たりにした社会課題の解決に向けて取り組むようになりました。しかし、高校では大学受験のための勉強が一般的。体調を崩したこともあり、「やりたい活動と高校生活をどう両立するかという葛藤が常につきまとっていた」と言います。「自分が情熱を注ぎたいことに時間を使いたい」と思った大西さんは、総合型選抜（受験生の学ぶ力を総合的に評価・判断する選抜方式）で大学を目指すことを決め、通信制の角川ドワンゴ学園S高等学校への転入を決意。今は全日制や定時制だけではなく、通信制の高校も多くあり、制度も整ってきていますが、その選択肢を知らない生徒も少なくありません。大西さんの場合も自分で調べ選んだそうです。

転入に際して背中を押したのは大西さんのお母さんでした。子どもが高校を転学するのは親にとっても大きな出来事ですが、「娘は自分自身と向き合っていく中で、時には無理をしてでも周りの空気に合わせて生きていたことに気づいた」と親としての胸中を語りました。

転入後の生活をイキイキと振り返る大西さん

高校の友達に伝えたのは高校を辞める直前。「理解できない」「もったいない」という意見の一方で、すでに地域活動やカンボジアの活動を始めていた大西さんの選択をポジティブに受け止める人も多くいたそうです。転入してからは総合型選抜の対策とカンボジアの活動に集中して充実した日々を過ごしました。

「選択するのも応援するのも自分自身。何を学びたいかを明確にして、目標をもって進むことが大切」と高校時代を振り返りながら力強く話しました。

五感を育み、自律・共生を育てる

グリーンヒルズ小／中学校

学校法人いいづな学園が運営するグリーン・ヒルズ小／中学校は、四季がはっきりした妙高戸隠連山国立公園内にある創立20年の学校です。

生徒は、小学校26名、中学校11名。「異なる意見や文化も認め合う風土は、ボーダレスの今の時代にとても大切なこと。考えることをあきらめず、目の前の課題がどうやったら解決できるか、他人事ではなく自分事としてトライできる子どもたちの成長を促したい」と校長の市川博美さんは語ります。

英語で図工授業のスケッチ

2022年4月から3つの課題解決型の学習プログラムを展開。「五感を育くむ学びのデザイン」では、校舎北に林立するシラカバの樹液を題材に「すべての木に樹液はあるのか、どれも飲めるのか、一年中採れるのか」などを探究。「実践型野外活動プログラム」では、校舎の横に生えていた猛毒のカエンタケを題材に、自然の驚異を知り、どう表現したら危険が他の人に伝わるかを子どもたち自身が考えてポスター作りに取り組みました。三つ目は「国際バカロレアPYPプログラム」です。国際バカロレア（IB）は平和を希求する国際教育プログラムで、同校は長野県内の小学校で唯一、日本語でIBプログラムを学ぶことのできる認定校となっています。けんかが絶えなかった1、2年生がそれを乗り越える過程をきっかけに、世界で起こっている紛争を学びました。そして、平和に向けて自分たちでできることを考え、友達同士が笑顔で一緒にいる写真集を作成。それを大使館やニューヨークにある国際連合本部に送付し、お礼の返事が来たそうです。

同校の教室は出入り戸口がなく、廊下でつながっています。開放的な教室に行くと「こんにちは～！」と屈託のない笑顔で元気よく話しかけてくれた子どもたち。長野市内はもとより、県外から移住してきた家族も少なくないそうです。「今後は近隣の小中学校との交流も重ね、卒業後をイメージした教育を実践していきたい」と市川さんは語りました。

自分のペースで過ごせる公立の居場所

教育支援センター SaSaLAND（ササランド）

旧長野市立七二会小学校笹平分校を改修し、今年4月にオープンしたSaSaLANDは、市内8カ所目の教育支援センターです。教育支援センターとは、学校に行きにくくなっていたり、行けない状態が続いていたりする小中学生に対して、自立心や社会性を高め、学習や集団行動への意欲が持てるように支援するための公立の施設です。

木材を多く取り入れた施設は、子どもたちの安全性を見守るためには良い広さ。「七二会と聞くと遠いイメージですが、バスに乗って街並みを抜けて山道を走ると、気持ちをリセットするのにちょうどいい距離感なんです」と語るのは施設長の大日方博さん。子どもたちには「おびさん」と呼ばれています。

SaSaLANDが大切にしているのは、子どもたちが安心を実感できる居場所であること。自分を理解してくれる大人に見守られながら自己決定、自己実現を可能にしています。学校のような時間割はなく、登校したあとは自由に過ごします。体育館が一番人気で、取材の日も学生ボランティアと一緒に子どもたちが走り回っていました。家でゲームしかしていなかった児童が体育館で走り回る姿を見た大日方さんは、「ゲームは好きでやっているんじゃない。やることがないからゲームしているだけだと気づく」と話しました。

他の教育支援センターとの違いは、メタバース（インターネット上の仮想空間）を居場所にして、オンライン上で他の児童生徒や学生ボランティアと関われること。メタバースを経験したあとに通えるようになった子どももいて、大日方さんは開設2ヶ月で子どもたちに変化を感じています。

利用登録者数は約120名で、1日の利用者数は20～30名。「ルールがないからトラブルもあります。課題もこれから出てくるでしょう。でも、子どもの気持ちを聞きながら、子どもたち同士で話し合い、みんなでつくることで安心につなげたい」と大日方さんは温かいまなざしで語りました。

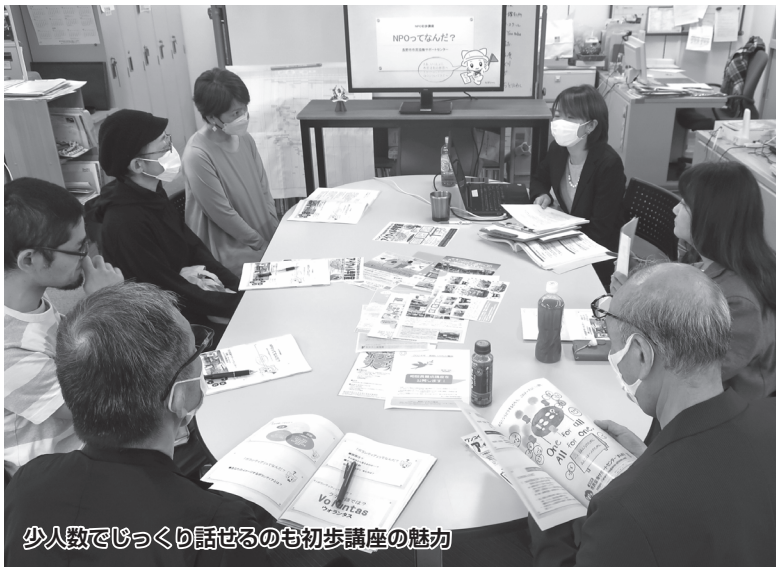
スタッフとおびさん（中央）

学校に行くのが当たり前ではなく、学校に行かない選択や「学校に行くならどこに行くか？」と子どもたちの選択肢が増えたことは良い流れではないでしょうか。ですが、選択肢の存在を知らない、または選択できない子どもたちがいるのも事実です。

市民協働サポートセンターでは「未来を見据えた不登校支援を考えよう！」と題した交流会を開催します（8頁参照）。長期的な視点を持ちながら子どもに関わる団体がつながり合うことで、子どもを真ん中にした地域社会を目指しませんか。

まんまるNEWS

NPO初歩講座「NPOってなんだ?」



少人数でじっくり話せるのも初歩講座の魅力

5月11日、NPO初歩講座「NPOってなんだ?」を開催し、市民活動に関心を持つ5人が参加しました。

まずは、参加者が自己紹介を兼ねて「今日参加した理由」を共有。「どんな活動があるのかまずは知ってみたい」「任意団体からNPO法人への移行を考えている」など、さまざまな理由が聞かれました。次に、戸井田センター長がNPOに関する基本知識をレクチャーし、「ボランティアって何?」「NPOって何?」という参加者の疑問に答えました。

今回の目玉企画「先輩NPOに聞いてみよう!」のコーナーでは、NPO法人プロ家庭教師のネットワークアイウィルの上垣直美さんが、NPO法人化した理由や経緯、その中で良かったことや課題に感じたことなどを話しました。NPO法人化で事業の幅が広がった一方、「メンバーそれぞれの想いを法人のビジョン・ミッションに反映させる過程に苦労した」という話が印象的でした。

参加者からは「とても参考になった」という感想が多く聞かれ、講座終了後には参加者同士が情報を持ち寄り相談し合う姿も。新たな一歩につながる時間となりました。

次回の初歩講座は冬に開催の予定です!お楽しみに!

NPOステップアップ

NPOステップアップ講座【最新版】心をつかむタイトルの作り方教えます!

団体の活動に欠かせない広報。発信した記事を読んでもらうには、まず「タイトル」が大切。そこで、タイトルを考える講座を6月16日に開催し、市民活動や地域活動に取組む9人が参加しました。

前半は、講師の寺澤順子さん(ソーシャルデザインセンター)から、広報に際してのリテラシーやタイトルをつけるポイントについての講義。「大切なのはターゲットを意識すること。特定の人をイメージして考えると良い」や、「共感から行動へつなぐ視点も大切」という話もありました。

後半はそれぞれのイベントや記事を題材に、会話型AIサービス「ChatGPT」を駆使し、実際にタイトル作りに取り組みました。参加者からは、「今まで一人で考えていたけれど、一緒に考える相棒ができたみたいで嬉しい」「まさに伝えたい内容をまとめてくれた」と驚きや喜びの感想がありました。最後に寺澤さんは、「AIに振り回されずうまく付き合ってほしい。仲間でシェアしてよりよいものを創って」と話しました。

ChatGPTに楽しみながら挑戦しました!

#29 My ストーリー

被爆体験を聴く会

代表　土田 昇さん

会社の方針により51歳で早期退職した土田さん。関連会社への再雇用という措置に納得できずにいましたが、「人生の後半戦に臨む良いタイミングだ」と捉え直したそうです。これをきっかけに価値観はリセットされ、チャレンジ精神とポジティブな思考が培われました。それが土田さんを「快活な人」と印象づけるのかもしれません。仕事一辺倒だった自分を振り返り、これからは「人の役に立つ仕事をしよう」「地域と交流をもって暮らそう」と決めました。

そして、第2の職場に身を置きながら、NHK学園社会福祉コースで介護福祉士資格取得に向けて学び始めます。同時に長野市の地域助け合い事業にも参加。福祉有償運送運転者の講習を受け、地域の移動困難な人の送迎や、高齢者の買い物や掃除援助に取り組んでいきました。

2021年3月に退職した後は、デイサービスでの仕事を生活基盤としながら、多岐にわたるボランティアに尽力しています。その一つである、核兵器廃絶への思いを次世代につなげる活動はライフワークです。2015年、広島で開催された「CSネットワーク※全国大会」に参加した際、広島代表から「『被爆体験を聴く会』を長野でも」と打診されました。思いに共感した土田さんは、長野で同会を立ち上げると同時に代表に就き、19年に被爆体験伝承者を招いた講演会を開催。その後は毎年夏に平和学習会を開いています。

昨年夏の「NPOカフェまんまるわたしたちの考える平和」では、平和活動について講演し、学生をはじめ多くの市民が参加しました。土田さんが投じた一石によって、平和を願う思いは未来へつながっていきます。

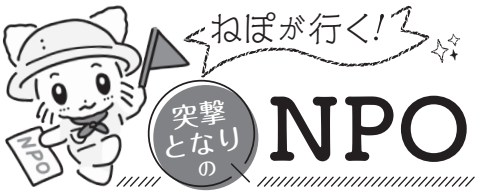
※CSネットワーク：NHK学園社会福祉コースの卒業生で構成され、交流を通じて学びの実践や情報交換を行っている。

取材・執筆　市民ライター　佐藤テイ子

プロフィール

長野市在住。趣味の一つは音楽で、長野市を本拠地に活動する男声合唱団「ZEN」に所属。パートはバス。
被爆体験を聴く会代表、CS ネットワーク長野事務局長など

団体情報
被爆体験を聴く会
メール：noboru.mail6630@gmail.com



特定非営利活動法人 千曲ねこの会

「千曲ねこの会」は、2018年に市民団体として活動をはじめ、2023年NPO法人化しました。人と猫が共生できる世界を目指し、繁殖抑制のための不妊化手術などの活動を中心に、猫に関する相談や地域への啓発をおこなっています。

法人として目指すのは、猫を通じて市民の生活を豊かに後押しする活動です。野良猫や動物の問題は苦情として寄せられ、地域住民の生活にも影響を及ぼします。孤独孤立の生活、高齢者との関わりなど、耳を傾けるとそこに潜む地域課題が顕在化することもあります。当事者ではなくても「苦情は地域の宝」と平田さん。

所在は千曲市ですが、長野市など近隣市町村への対応や学習会を開催しています。「動物というだけで保健所に対応してもらうのではなく、地域で気になることがあれば気軽に相談してほしい」と話していました。

飼い主のいない猫の不妊化手術のために保護する様子

団体名：会長 平田里美
連絡先：chikuma.nekonokai@gmail.com

お宝ザクザク 地域を掘りおこせ！

浅川地区 & 芋井地区

地域内外の力で草刈り！

浅川地区

長野駅から5㎞ほど北にある浅川地区は、山間部と町が共存する地域。豊かな自然と、ループ橋や浅川ダムといった施設、ブランド薬師をはじめとした歴史的な神社や史跡などさまざまな資源があります。

大人も子どもも一緒に作業！

その中にある門沢集落は、住民全員が65歳以上。高齢化に伴う集落の草刈りの担い手不足が大きな課題です。

4月29日、同地区で初めての試みとして、道路の草刈り・清掃サポーターを募集し、地区内外から小学生や高校生を含む7人が参加しました。地元の人と一緒に3時間半、約3㎞の道のりにたまった落ち葉や刈った草の清掃作業をしました。合間の休憩には、「あそこに浅川小学校の分室があったんだよ」「今わらびが大きくなっててね」など、交流を楽しむ姿も多く見られました。

参加者からは、「地域の方と一緒に活動することで、見聞きするだけではわからない魅力や大変さを実感できた」といった感想のほか、「とても有意義な時間だった。今後も協力できることがあればしていきたい」という心強い声が聞かれました。帰りには浅川ダムに飾られたこいのぼりを見ながら昼食を楽しんだ参加者たち。同地区の丸山幸一区長は、「地区外の方にも協力してもらい、本当にありがたかった。今後も連携できたら」と話しました。

草刈りバスターズ養成講座

芋井地区

6月9日、長野市芋井の広瀬ふれあい公園で、「いもいリビングらぼ（芋井地区住民自治協議会）」が主催する「草刈りバスターズ養成講座」が開かれました。

ビギナーコースの参加者たちで記念撮影

地区内外から15名が受講し、地区のベテラン指導陣とスタッフを合わせて35名が参加。座学と動画で、草刈り機を安全に使うための基本と身支度、操作方法などを学んだ後、初心者の「ビギナーコース」と、ステップアップをめざす「エキスパートコース」に分かれて、いざ実践。

「草刈り機をはじめて使う」という人はベテランの手ほどきもあって次第に慣れ、「こんなに楽しいとは思わなかった」という感想。芋井産の昼食もおいしく「とても満足」と笑顔の参加者たち。一方、ベテラン陣は「慣れてくるほど安全の意識を忘れがちなので注意したい」と気を引き締めていました。

高齢化が進む地区にとって、草刈りは年々難しくなっている課題のひとつ。楽しく学んだ講座の成果が将来も活かされることを期待しています。

まんまる 市民協働サポートセンター スケジュール 2024年 7月▶9月

タイトル	日　時	会場／費用	内　容
NPO カフェまんまる 「犯罪を繰り返さないため 市民活動ができることは」	7月7日（日） 14:00~16:30	もんぜんぷら座 3 階 304 会議室 参加費：無料 対象：関心のある市民活動団体・企業・個人、更生支援団体、保護司、教育関係者	再犯を防ぐためには、市民が現状を正しく理解し、罪を償った人が安心して過ごせる社会を目指す必要があります。長野少年鑑別所と協働し、更生を目指す若者が社会とつながって生活環境を整えるために市民活動団体ができることについて考えます。 協力：長野少年鑑別所
NPO カフェまんまる 「未来を見据えた 不登校支援を考えよう！」	8月8日（木） 13:30~16:00	もんぜんぷら座 3 階 302 会議室 参加費：無料 定員：20 人 対象：子どもに関わる団体、学校運営団体・行政・教職員・学生・個人	長野市には不登校や不登校傾向にある子どものための居場所があります。私設フリースクールや通信制高校など多様な学びを提供する団体も増えてきました。子どもたちの未来を見据えた不登校支援とは何か?長期的な視点を持ちながら子どもに関わる団体がつながり合うことで、子どもを真ん中にした地域社会を目指す交流会です。
NPO ステップアップ講座 「大解剖！ながのまちづくり活動支援事業補助金」	9月28日（土） 15:00~17:30	もんぜんぷら座 3 階 304 会議室 参加費：無料 定員：30 人 対象：市民活動団体 （住民自治協議会を含む）	長野市には、市民が自主的・主体的に取り組むまちづくり活動を、最大 100 万円の補助金で支援する「ながのまちづくり活動支援事業」があります。講座では、この事業の概要と申請書の書き方や注意すべき点などを学んで、実際に申請書を書いてみる実践的なワークショップを行います。
まんまるボランティアサロン ①ボランティアさん集まれ！ ②機関誌発送サロン	①毎月第 4 火曜 10:30~12:00 ②10月1日（火） 10:30~	市民協働サポートセンター （もんぜんぷら座 3 階） 参加費：無料 対象：誰でも	まんまる開催のボランティアサロンです。「誰か」や「自分」のために、楽しく無理なくボランティアをしませんか? 10 代から 80 代までいろんな人が活躍しています! ①封筒や紙バックをカレンダーや新聞紙で作ったり、その日によって作業は変わります。 ② 3 ヶ月に 1 回発行するセンターの機関誌を発送する作業です。今回は土曜日!封筒へのラベル貼り、機関誌やチラシの封入をします。

開催方法などが変更になる可能性があります。ホームページやフェイスブックでも随時情報発信しています。あわせてご確認ください。

スタッフ紹介

増田（ますだ） 朱美（あけみ）

情報発信（広報）や事務などを担当します。2014年から約3年勤務しておりました。
出戻りです（笑）長野県の郷土料理や、日本の伝統衣装の【着物】伝承にも日々気持ちを寄せております。食べ物「芋栗南瓜」があれば幸せです!

まんまるはココに！

食堂「ししとう」

長野市役所第一庁舎8階にある食堂「ししとう」。元々都内のホテルなどで働いていたマスターの盛壮司(もりたけし)さんは、「もっとお客さんの表情・反応が見える距離感で飲食店をやりたい」と、故郷長野市に戻り食堂の経営を始めました。「人々の普段のごはんを支えたい」という思いのもと、メニューや価格、栄養バランスなど工夫を凝らしています。おいしいと評判の手作りパンを使ったハンバーガーも仲間入り！リーズナブルでおいしいごはんはもちろん、元気のいいマスターと店員のみなさんに会いに行ってみてください。

長野市鶴賀緑町1613 長野市役所第1庁舎8階　TEL：026-228-6852　営業時間：11:00～13:30　定休日：土日祝

庁舎内で
店舗を構えて今年で 20 年！

発行 / **市民協働サポートセンター（長野市）**
TEL:026-223-0051　FAX:026-223-0052
〒380-0835 長野市新田町 1485-1 もんぜんぷら座 3 階
e-mail：npo@nagano-shimin.net
ホームページ：https://nagano-shimin.net/

編集後記

今年は（今年も?）気温の変化が激しいですね。子どもが幼稚園の頃に出会った友人との会話が、子育ての悩みから自分の健康の話になりました。人の名前が思い出せなくなり、文字もぼやけるようになり、大人の階段を順調に登ってます！（スタッフH）